

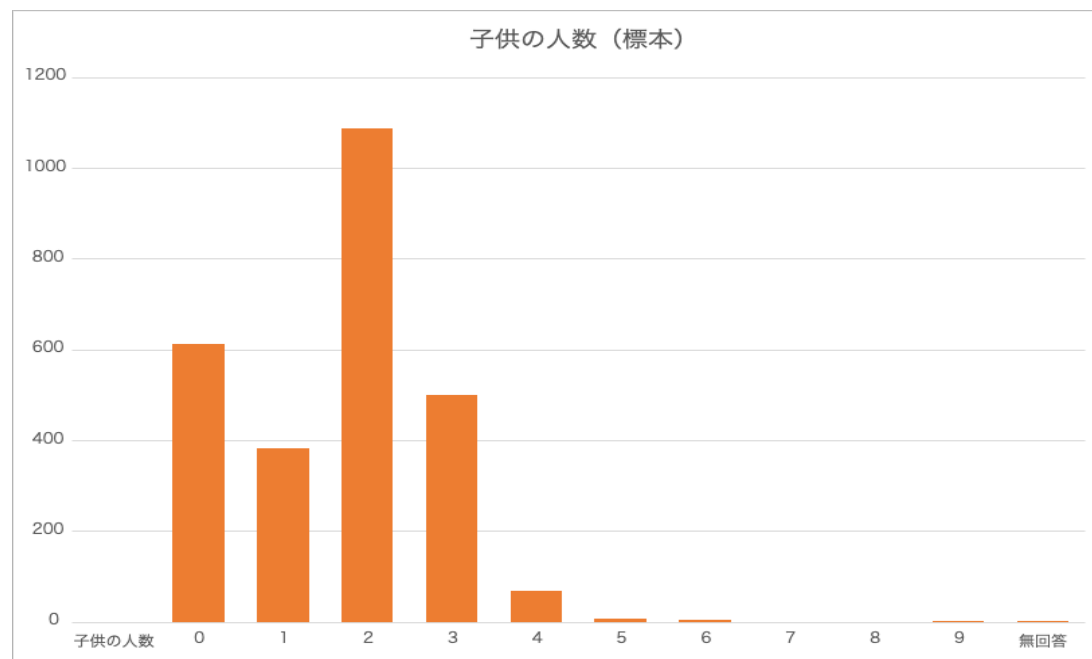
子供の人数と 幸福度の関係

～子供が何人いる人が最も幸福度が高いのか～

問い

子供が何人いる人(成人の男女)が一番幸福度が高いのか
人(成人の男女)は子供を何人もてば、幸福度が高いのか

JGSS2017-2018データ参照



→ JGSS2017-2018データでの子供の人数別割合

- ・子供の人数が2人の割合が最も多いことがわかる
- ・子供を持たない選択をする人も多い
- ・子供の人数は1人より複数人持つ人の方が多い

昨今、若い世代で子供を持たないという選択をする人が増加傾向にある
その理由は様々であるが、その人を取り巻く多くの要因が関係していると考えられる
その中で、子供を何人持つと幸福度が最も高いのか、統計的に考えていきたい

先行研究①

子供と幸福度～子供を持つことによって、幸福度は高まるのか～
(佐藤一磨 2021)

・概要

既婚女性の子供の人数と、幸福度についての研究
(※男性や未婚女性は含まれていない)

・結果

0人が一番幸福
女性は結婚していれば子供を持たないほうが幸せ
子供の人数が多くなるにつれて幸福度は低くなる

先行研究②

配偶状態・結婚、子供の有無・子供の誕生が主観的幸福度に与える影響について
～生活の質に関する調査結果から～ (桑原進 2017)

・概要

子供の有無と幸福度に関する研究

子供のいる人の子供が生まれてからと生まれる前を比較

人数についての研究はなし

研究対象者は成人の男女、未婚・既婚者

・結果

子供がいる人の方が幸せ

※ただし、同じ対象者の子供が生まれる前と、生まれた後の比較しかされていない

仮説(考察)

- ・子供がいないと寂しい？
- ・1人だと、その子が寂しい？
- ・3人、4人、5人、6人、、、になるとお金がかかるから貧乏になる？
不幸せになる？

・・・ 幸福度の低下につながる？



子供の人数は2人が
最も幸福度が高いのでは？

データ

- Japanese General Social Survey (JGSS) 2017 / 2018統合版を使用
 - JGSS 2017
 - 調査地域: 全国
 - 調査対象: 2016年12月31日時点で満20歳以上、89歳以下までの男女個人1500人
 - サンプルサイズ: 1500人
 - 抽出方法: 層化二段無作為抽出法(全国を6ブロックに分け、市郡規模によって4段階に層化し、人口比例により101地点を抽出。各地点において、15名前後を抽出。)
 - JGSS 2018
 - 調査地域: 全国
 - 調査対象: 2017年12月31日時点で満20歳以上、89歳以下までの男女個人1500人
 - サンプルサイズ: 4000人
 - 抽出方法: 層化二段無作為抽出法(全国を6ブロックに分け、市郡規模によって4段階に層化し、人口比例により267地点を抽出。各地点において、15名前後を抽出。)
- 詳細は「大阪商業大学JGSS研究センター」のホームページを参照

分析方法

- 応答変数: 幸福度 (1~5)
 - あなたは、現在幸せですか。
- 説明変数: 子供の数 (0~9)
 - これまでおもちになったお子様は何人ですか。
独立した方、亡くなった方も含めてお答えください。
(非線形の関係を想定し、自乗項を投入)
- 統制変数: 性別、学歴、収入、居住地域
- 線形回帰分析

記述統計

- 分析に使用する変数の記述統計量

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効ケース数
children (子供の人数)	1.64	1.13	0.00	6.00	2252.00
happy (幸福度)	3.77	0.93	1.00	5.00	2252.00
income (収入)	6.04	3.29	1.00	19.00	2252.00
gender (性別)	1.52	0.50	1.00	2.00	2252.00
age (年齢)	54.43	17.19	20.00	89.00	2252.00
areazise (居住地)	3.14	0.88	1.00	5.00	2252.00

分析結果

推定結果

	Model1
切片	3.027 (0.140)
子供の人数	2.013 (1.287)
子供の人数の自乗	-1.412 (1.060)
離婚	0.197 (0.108)
既婚	0.434 (0.080)
大卒	0.196 (0.050)
収入	0.017 (0.007)
性別 (1: 男性 2: 女性)	0.233 (0.047)
居住地	-0.029 (0.022)
Num.Obs.	2244
R2 Adj.	0.068

→ 下に凸の曲線

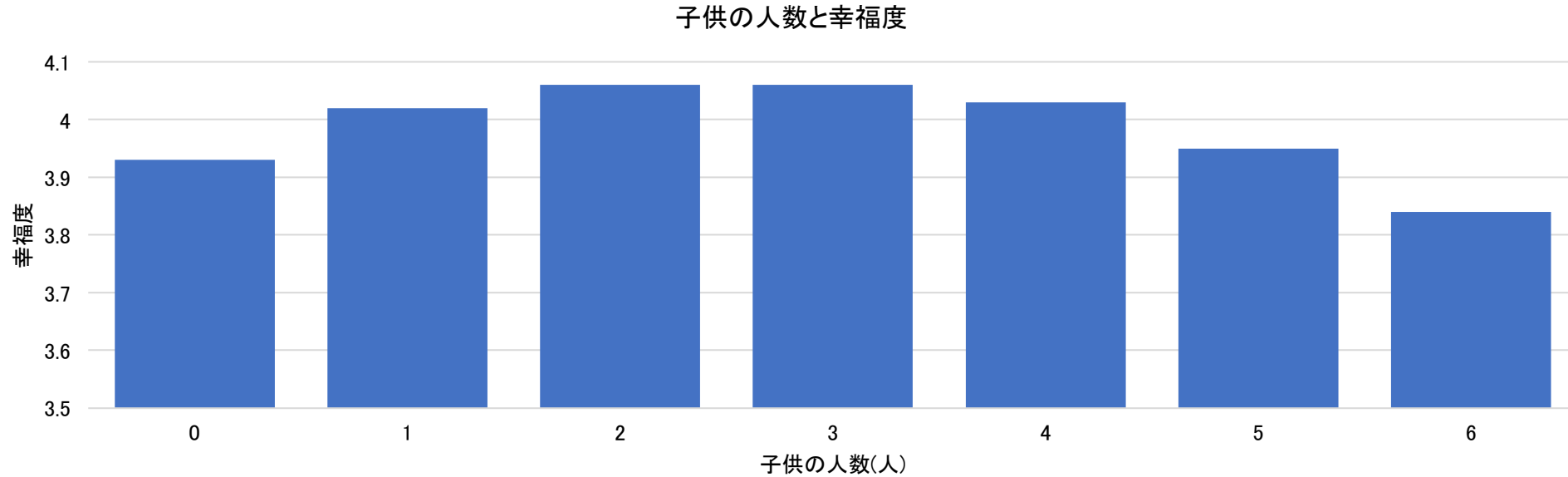
連続変数

- ・ 子供の人数
- ・ 収入
- ・ 性別
- ・ 居住地

比較ベース

- ・ 結婚有無: 未婚
- ・ 学歴: 高卒

子供の人数と幸福度



- ・子供の人数が2, 3人の時、最も幸福度が高い(幸福度4.06)
- ・子供の人数が2, 3人の層をピークに、逆U字に幸福度が推移している

統制変数の説明

人の幸福度に大きく影響する変数を用いて比較する

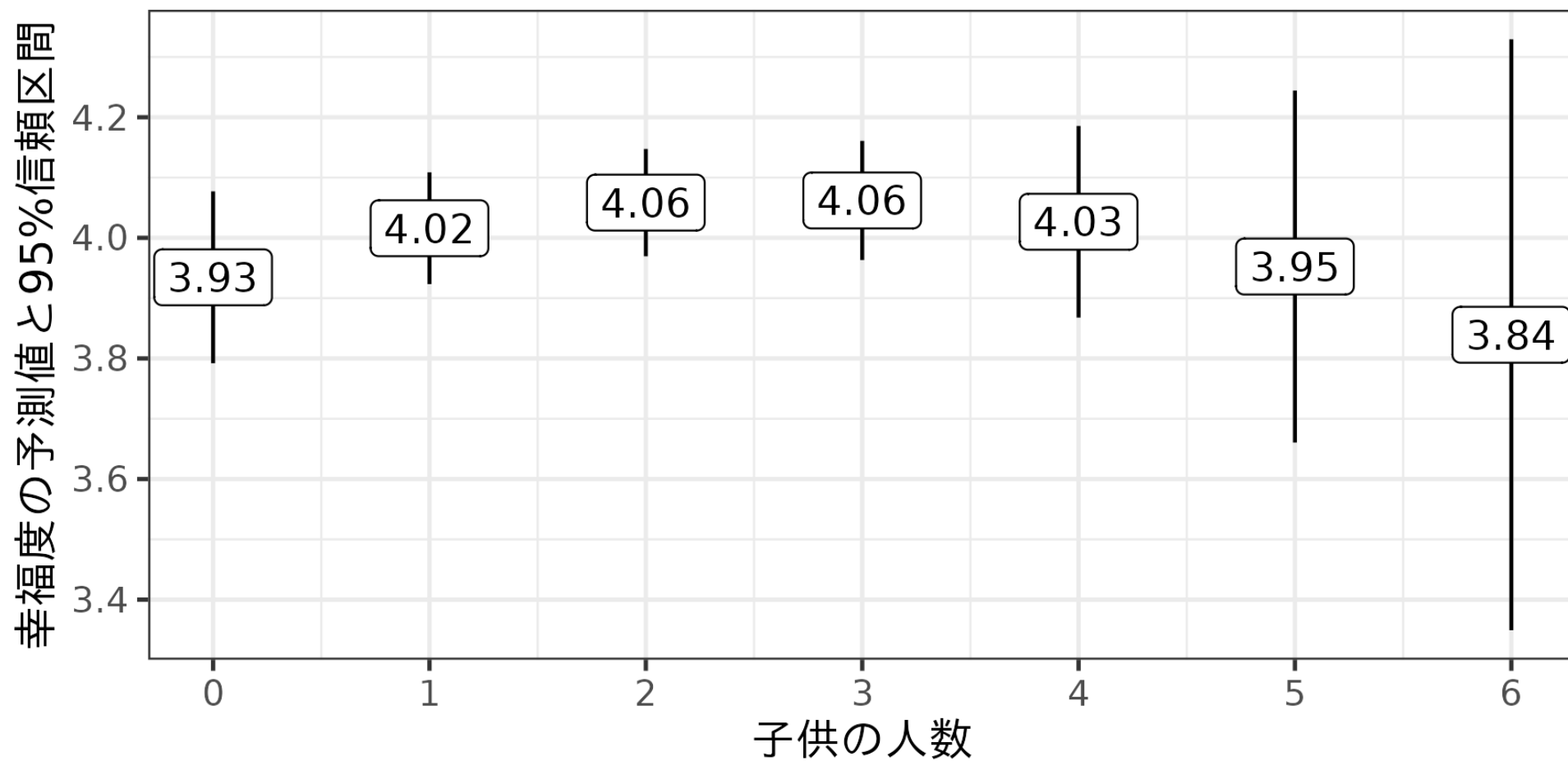
- ・結婚の有無 既婚・未婚・離婚
- ・学歴 高卒・大卒
- ・性別 男・女



これらの変数間で幸福度に違いがあるのか…

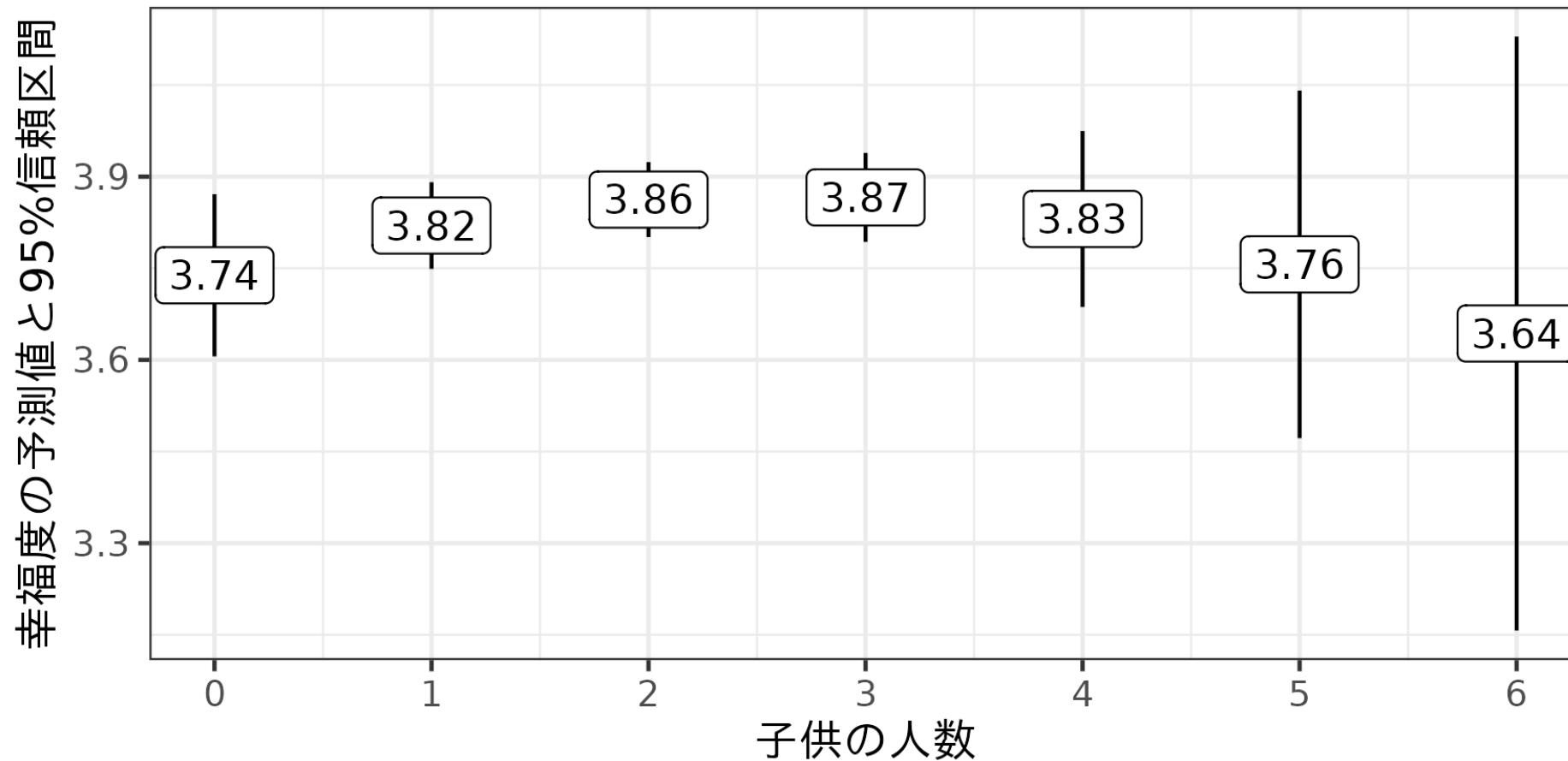
それぞれの変数のもとで、幸福度の予測値を比較していく

大卒



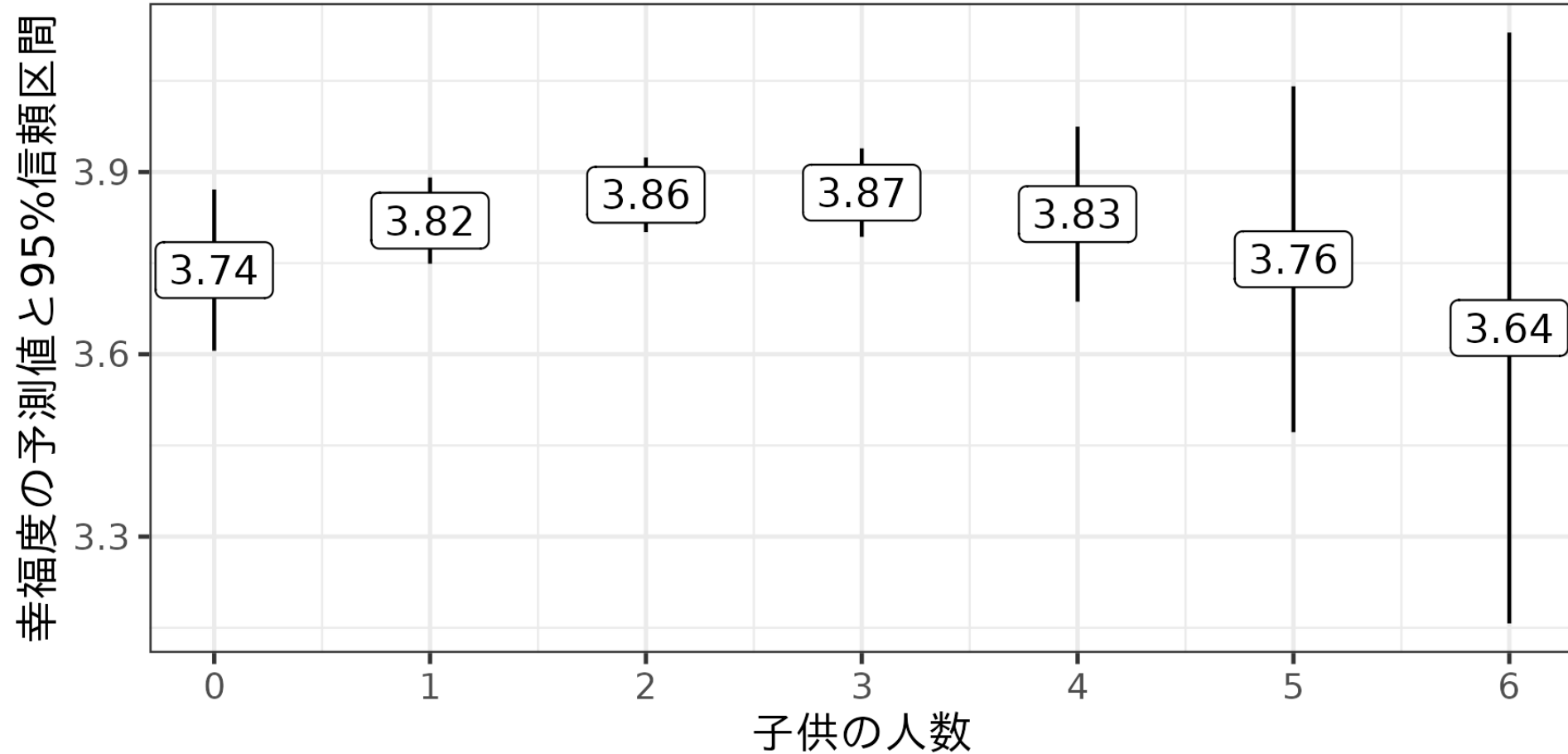
予測値のピークは子供の人数が2, 3人の層であり、幸福度の予測値は4.06となる

高卒



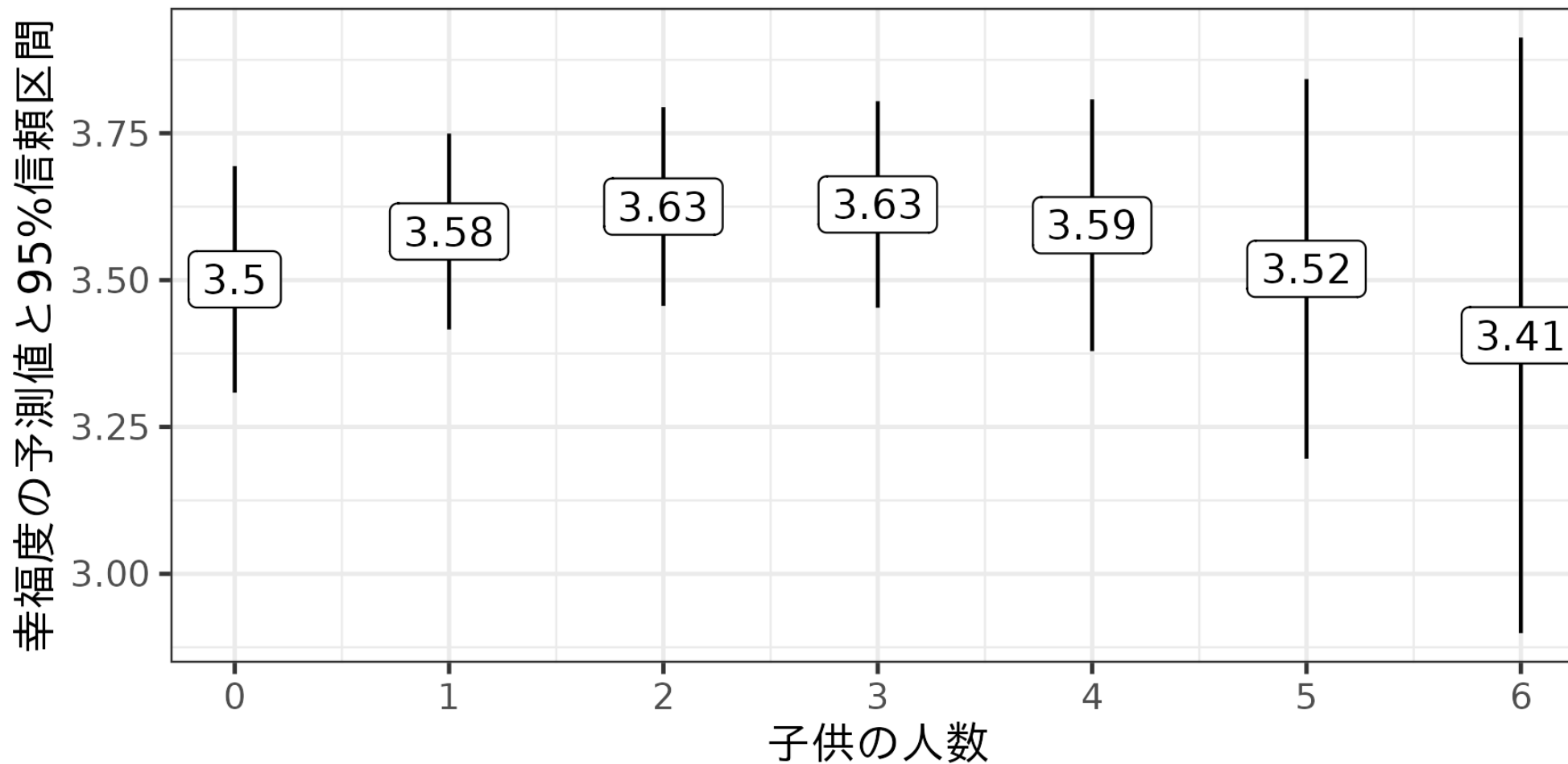
予測値のピークは子供の人数が3人の層であり、幸福度の予測値は3.87となる

既婚



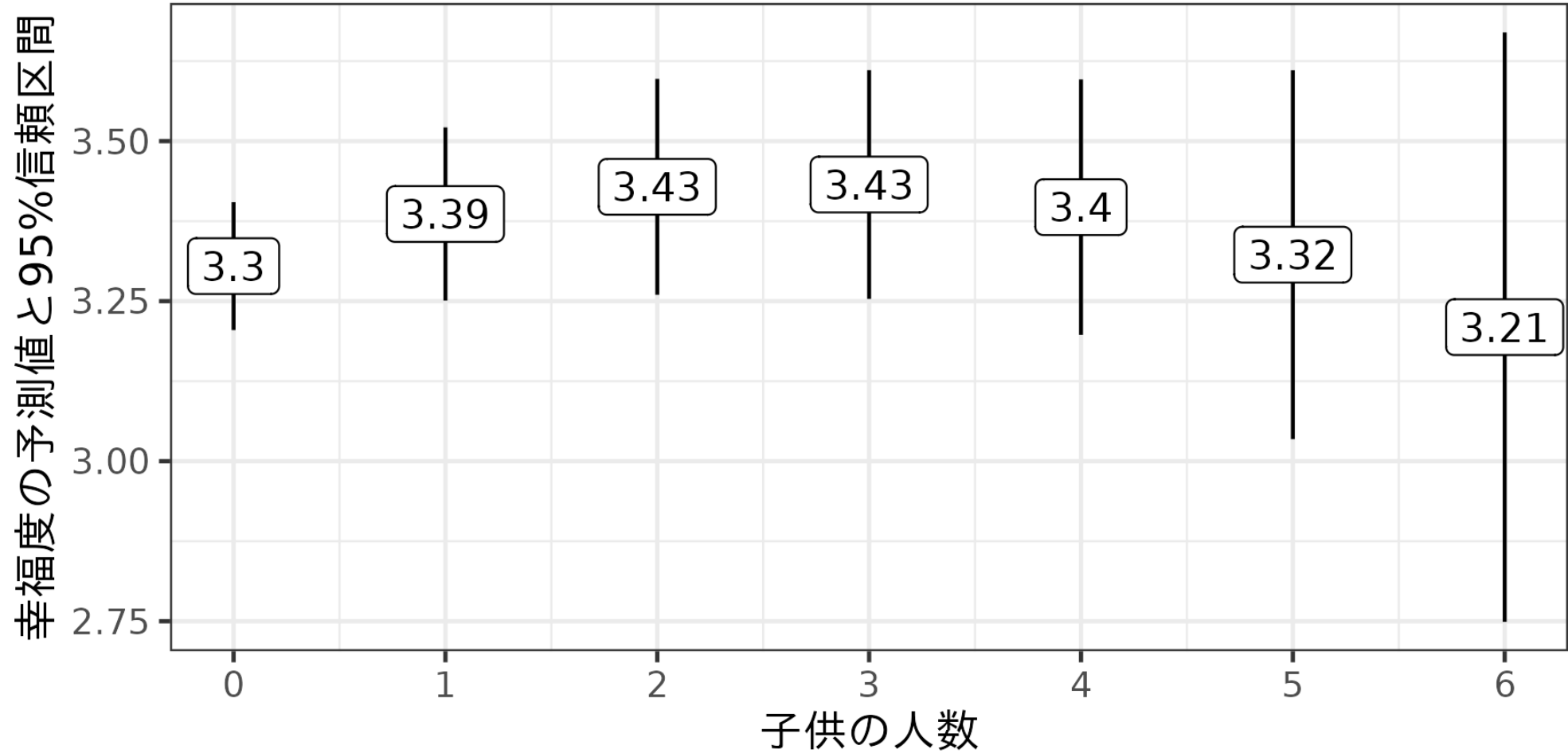
予測値のピークは子供の人数が**3人**の層であり、幸福度の予測値は**3.87**となる

離婚



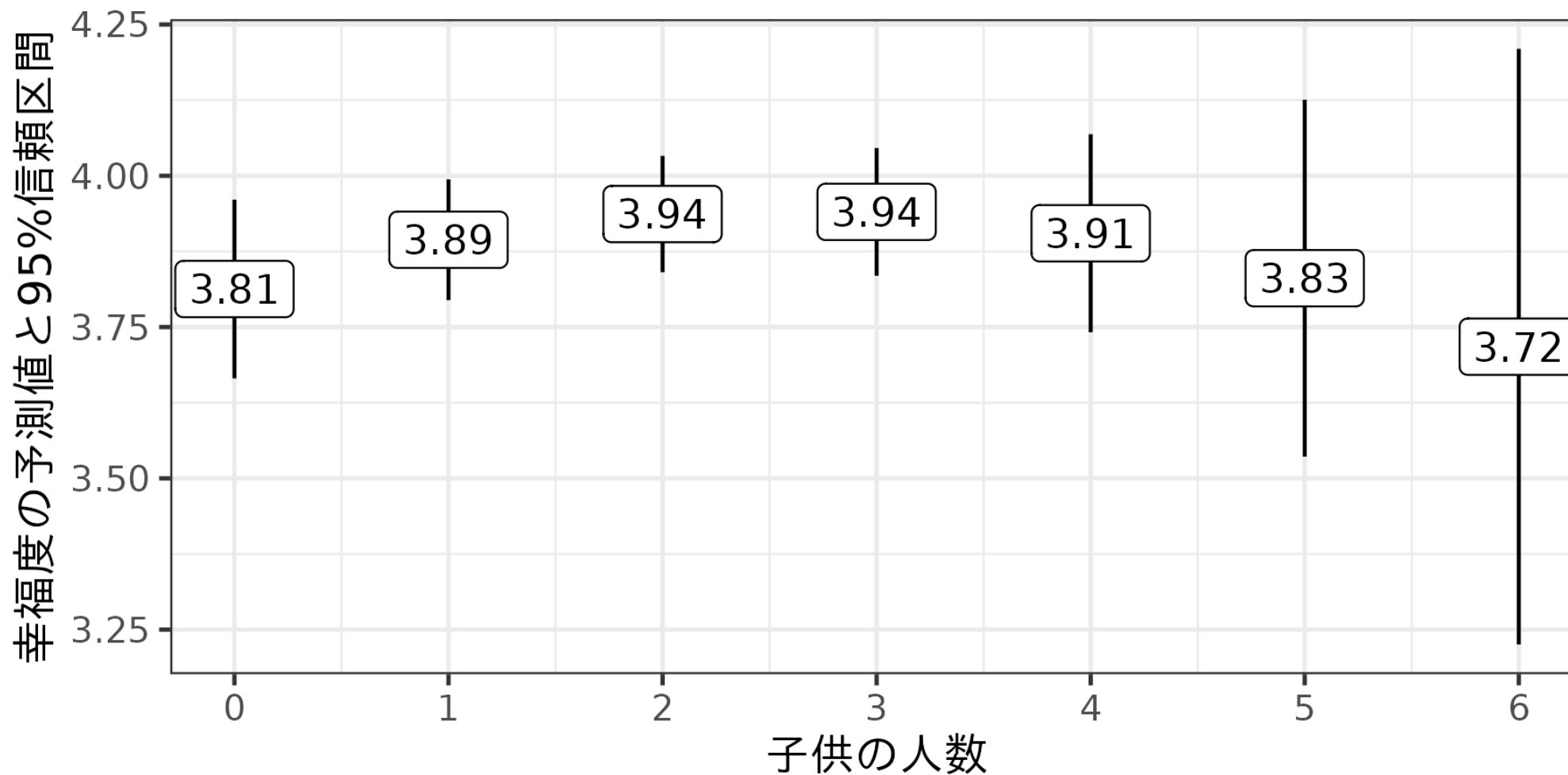
予測値のピークは子供の人数が2, 3人の層であり、幸福度の予測値は3.63となる

未婚



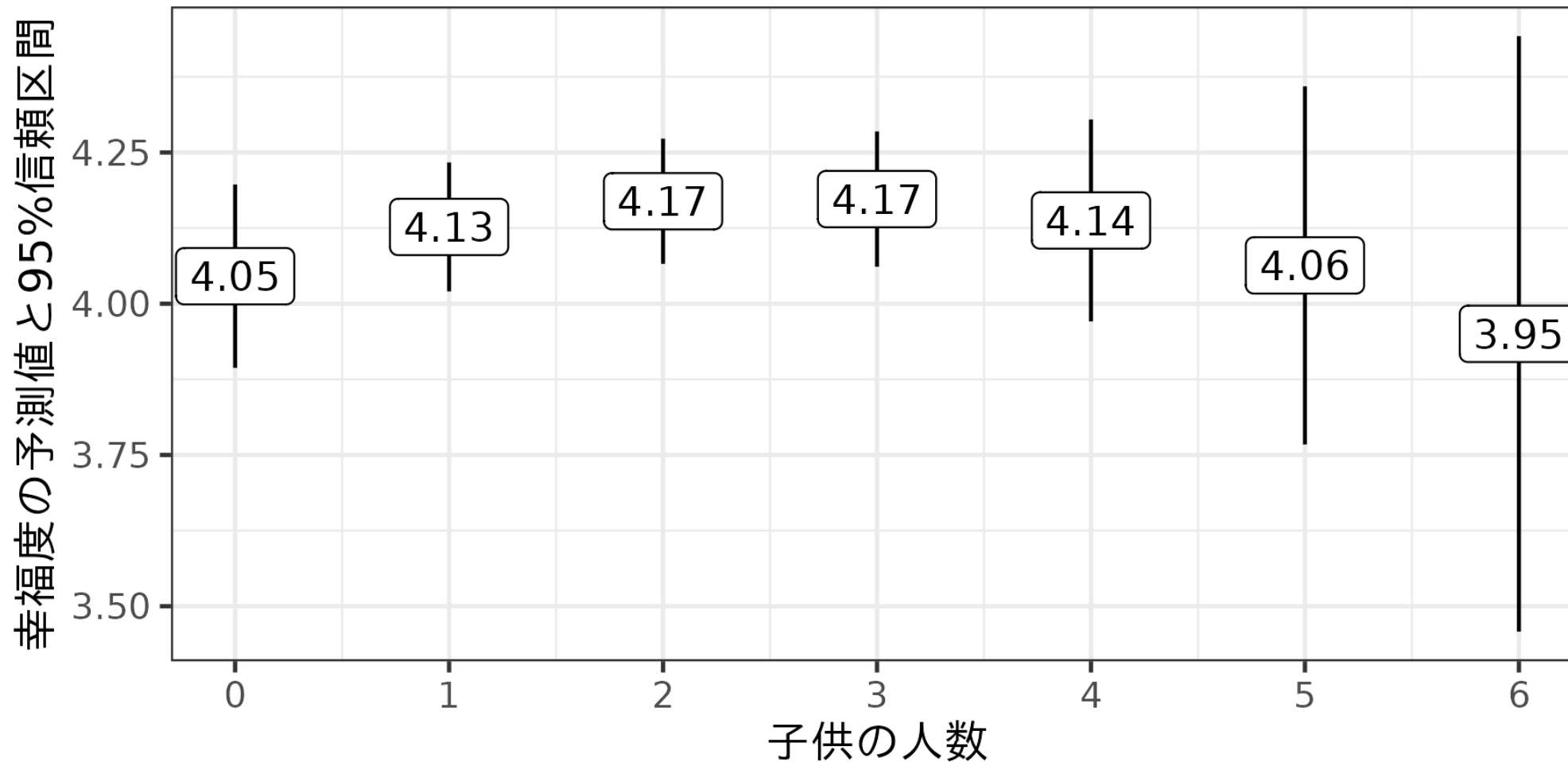
予測値のピークは子供の人数が2, 3人の層であり、幸福度の予測値は3.43となる

男性



予測値のピークは子供の人数が2, 3人の層であり、幸福度の予測値は3.94となる

女性



予測値のピークは子供の人数が2, 3人の層であり、幸福度の予測値は4.17となる

結論

子供の人数が2人～3人の人が最も幸福度が高い

幸福度のピークは、子供の人数が2, 3人の時であり、統制変数で比較した際にも同じ結果が得られた

しかし

その人を取り巻く環境や条件によって、幸福度は変化する

学歴

高卒：幸福度3.87

大卒：幸福度4.06

性別

男性：幸福度3.94

女性：幸福度4.17

結婚

未婚：幸福度3.43

既婚：幸福度3.87

離婚：幸福度3.63

(子供の人数が2, 3人時の変数別幸福度)



含意

・家族計画に役立つ

経済状況などの条件を踏まえて、子供を何人産むか検討することができる

・少子化への政策実施に役立つ

子供を持つことにポジティブな印象を与えることができる結果であった

・人生の選択に役立つ

結婚の選択、子供を持つ選択など人生における選択をする時に参考にすることができる

課題

- 今回取り扱った変数以外で幸福度を左右する条件が多すぎるため統制することが困難である

- 統制した変数の課題
 - ・既婚の幅が広すぎる
 - ・学歴はカテゴリの中でも幅が広い

- 子供の有無が幸福度に影響する程度が未知数である